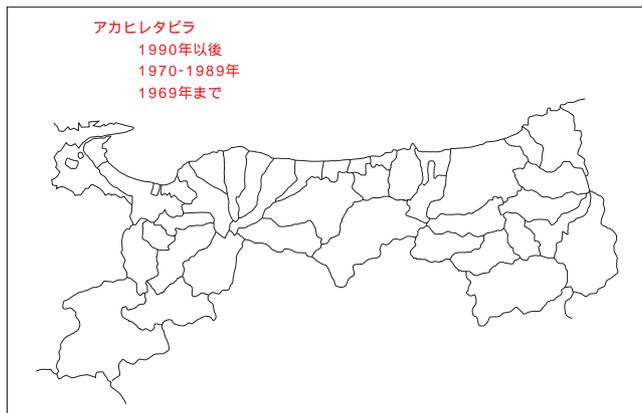




選定理由：近年、用水路等のコンクリート化や河川改修に伴い、産卵床の二枚貝類の生息環境が失われつつある。本県のアカヒレタビラの生息場所はきわめて限定され、その生息は危機的状況にある。「山陰地方のアカヒレタビラ」は環境省RDBで絶滅のおそれのある地域個体群。

形態と生態：全長8cm程度。体は淡い青紫色であり、えらぶた後方の肩部に円形の淡青色の斑点がある。さらに、雄の尻びれ外縁が赤くなることにより、タビラ*A. tabira*の他の亜種（シロヒレタビラ*A. tabira tabira*、セボシタビラ *A. tabira* subsp. S）と区別できる。肩部の斑点は、ホルマリン標本では明瞭になる。山陰地方からは1980年に鳥取県多鯨ヶ池で初めて確認され、その後、島根県でも報告された。多鯨ヶ池ではその直後からのブラックバスの放流のためか、その後確認されず、すでに絶滅しているおそれが強い。

分布(県内)：日野川水系の一部(米子市法勝寺川, 新加茂川), 多鯨ヶ池(鳥取市・福部村: 当地では現在は確認できない)。



分布(県外)：東北・関東・北陸, 山陰地方(西は島根県大田市まで)。日本固有亜種。

生息環境：おもに平野部の湖沼や流れの緩やかな水域を好む。

保護上の留意点：産卵床となる二枚貝類を保護する必要がある。また、魚食性の大型淡水魚類であるオオクチバスなどの移植は厳に慎まなければならない。生息状況についての情報が乏しいため、早急の実態調査を行う必要がある。

文献：安藤重敏(1993) アカヒレタビラ . pp. 96-97 . In: 鳥取県のすぐれた自然(動物)。

長田芳和・藤川博史・福原修一(1981) 鳥取県多鯨ヶ池で採集されたアカヒレタビラについて . 日本生物地理学会会報, 36 : 48-53 .

執筆者：安藤重敏